

つながりが地域の未来を創る

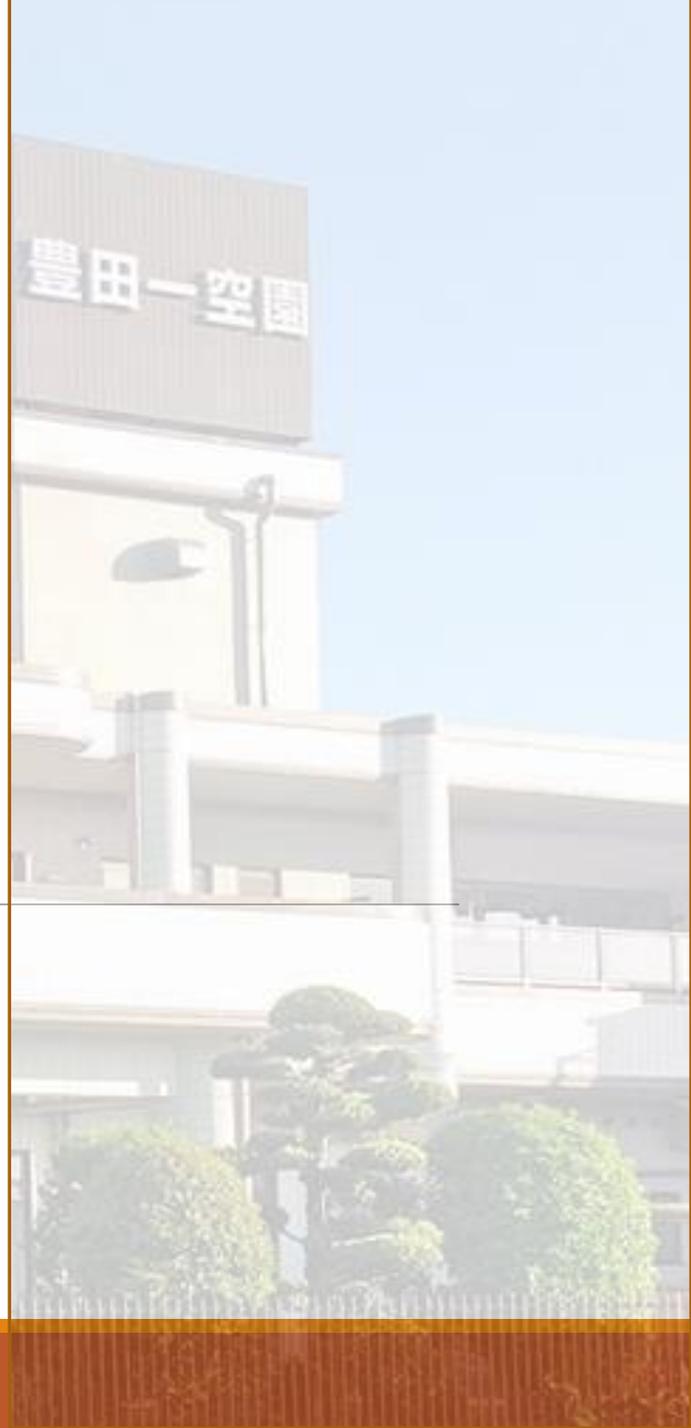
～豊田一空園在宅部の取り組み～

社会福祉法人 八生会

豊田一空園

山田隆史

平石さゆ美



研究目的

地域貢献事業を行う上で、在宅部会の取り組みから

1. チームで地域貢献を考える事のメリット
2. 地域づくりを推進する為に必要な事
3. 30年後も選ばれる法人の為に必要な取り組みの3点を明らかにする

内容

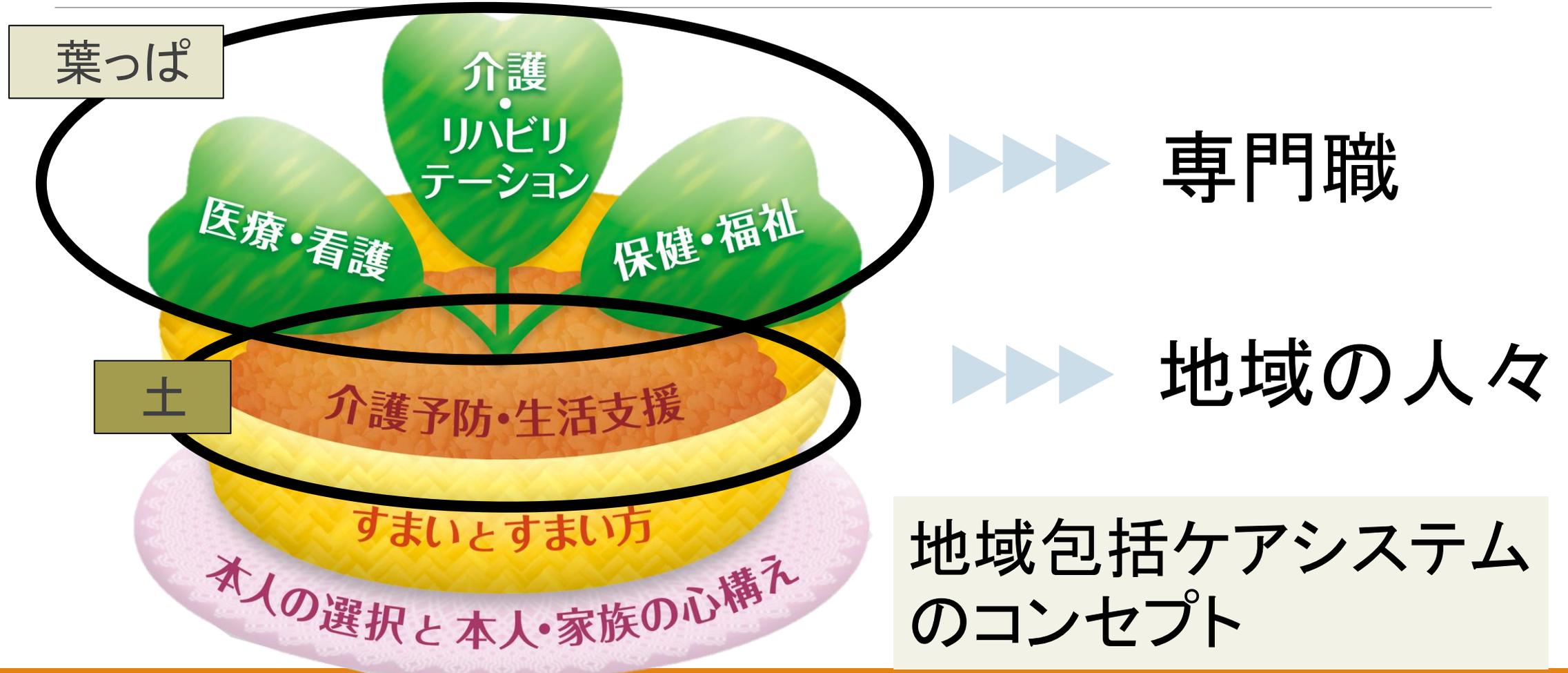
① 事業所と地域が連携する必要性

② 在宅部のチーム連携の取り組み

③ 実際の地区の課題と事業所が担った連携

① 事業所と地域が連携する必要性

植木鉢モデルで連携する必要性を理解する



② 在宅部のチーム連携の取り組み

在宅部会議の目的

月1で在宅部署が集まり情報共有を行う事で

各部署の専門職が地区の情報を共有する事は

【広い視野で地域課題に気付く事が出来る】

メリットがある



③ 実際の地区の課題と事業所が担った連携

地区の課題について

土
(地域住民)

目指す地区
(こんな地区にしたい)

- ・地域を我が事として考える事が出来る地域
- ・互いに助け合って暮らせる地域
- ・住民全員が活躍できる地域
- ・認知症の理解がある地域

地区に必要な社会資源
(こんな活動があったらいいな)

- ・買い物やサロンに行く為の移動手段に困った方への移動支援
- ・常時気軽に集まれる場所
- ・地域と福祉施設が交流できる場

地区懇談会とは・・・

→地域住民が地域における課題を話し合う場





③ 実際の地区の課題と事業所が担った連携

事業所と地域が連携をする事とは・・・

目指す地区

・地域を我が事として考える事が出来る地域

地域にある介護の施設ではなく

【 事業所も地域住民 】

として一緒に目指す地域を創り上げていく

業 士
(専門職) (地域住民)





取り組みを植木鉢モデルでまとめた気付き

▶ 地域課題から事業所の担う役割を、法人内他職種で検討する事で、
【 **自身の所属部署だけでは見えない視点に気付く事が出来る** 】

▶ 地域づくりを推進していく為に

【 **事業所も地域住民として地域を創り上げる意識を持つ** 】

▶ 30年後も選ばれる法人を目指すために必要なのは

【 **法人が地域にあってよかったと思ってもらえる取り組み** 】

運営推進会議(地域住民に対し活動報告)の場で



90代女性



八生会がここに
あって良かった

地域の方に響き、様々な場で地域住民が関わってくれる様になった

つながりが地域の未来を創る

